



お  
お  
す  
が  
お  
つ  
じ  
大須賀乙字の仲間たち  
〜近代俳句の青春〜

令和4年4月23日(土)～7月3日(日)

休館日 5月18日(水)・6月15日(水)

会期中のイベント

講演会

演 題：「大須賀乙字の出發  
～新傾向俳句の提唱者として～」

講 師：田部知季氏 (早稲田大学文学学術院)  
日 時：6月18日(土) 14:00～15:30  
会 場：体験学習施設 吹風殿 (当館に隣接)  
参加料：無料  
定 員：25名 (先着順、要事前申込)

勿来の関寄席

出 演：山椒家小粒、武相亭八木助  
日 時：4月30日(土) 14:00～15:30  
会 場：体験学習施設 吹風殿 (当館に隣接)  
参加料：無料  
定 員：25名 (先着順、要事前申込)

ギャラリートーク (要観覧券)

日 時：5月8日(日)・6月12日(日)  
14:00～14:30  
当館学芸員が展示内容について解説します。

※講演会・勿来の関寄席の申込みは、電話またはメールにてお願いします。  
※SNSからの連絡については、対応できない場合がありますので、ご了承ください。  
※来館にあたって、マスクの着用、入館前の検温、来館者カードの記入、手指の消毒などにご協力ください。また、発熱などの症状がある場合、入館をお断りすることがありますので、ご了承ください。



●観覧料は次のとおりです。  
※カッコ内は20名以上の団体料金

一 般	330円 (280円)
大 高 中	220円 (170円)
小 学 生	170円 (110円)

※無料になる場合  
・市内に住所を有する65歳以上の方  
・身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方  
・市内の小・中・高・専修・高専生 (土曜と日曜のみ)

開館時間 9:00～17:00 入 館 は 16:30まで

なこそそのせき  
いわき市勿来関文学歴史館

〒979-0146 福島県いわき市勿来関町田長沢6-1  
Tel : 0246-65-6166 Fax : 0246-65-6167  
E-mail : bunreki@iwaki-ec.or.jp

ホームページ



# 大須賀乙字と近代俳句

おおよすがおつじ  
 大須賀乙字（明治十四年（一八八一）〜大正九年（一九二〇））は、福島県いわき市出身の俳人です。東京音楽学校の教授を勤めました。乙字は斬新な俳論「新傾向俳句」を提唱し、当時の俳句界に新風を巻き起こします。学生時代から河東碧梧桐に師事し、小澤碧童・喜谷六花とともに碧梧桐門下（碧門）の三羽鳥と称されました。この三人に荻原井泉水・松本金鶏城・細谷不句・宇佐美不喚楼を加えた七人は、句会・旅行・観劇・冠婚葬祭の集まりなどを通じて親しく交流しました。



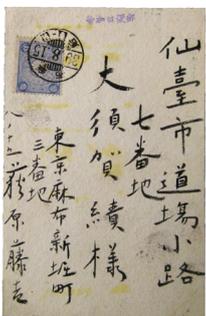
喜谷六花葉書（明治38年〈1905〉頃）



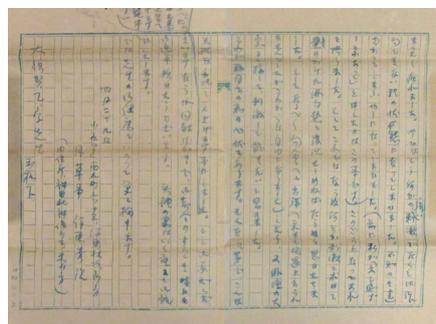
小澤碧童葉書（明治38年〈1905〉）



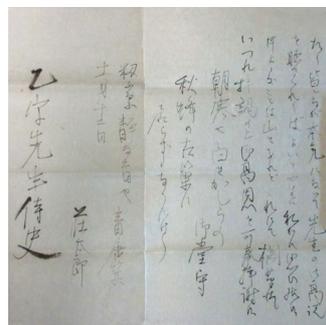
松本金鶏城葉書（年不詳）



荻原井泉水葉書（明治39年〈1906〉）



伊東月草書簡（部分、大正8年〈1919〉頃）



村上鬼城書簡（部分、大正4年〈1915〉）

## 『炬火』の仲間と句友たち

碧門の友人のほかの乙字の仲間には、句集『炬火』に入集した俳人たちがいます。乙字とともに『石楠』を創刊した白田亜浪・風見明成、『常盤木』の社主川俣馨一、『懸葵』に拠る大谷句仏・名和三幹竹・岩谷山梔子、直弟子の大江瑞光・逸見竹石、吉田冬葉などが著名です。『炬火』以外の乙字の若い門弟には伊東月草、金尾梅の門、内藤吐天などがいます。そのほかの句友としては、高浜虚子・中村不折・坂本四方太・岡本癖三醉などが知られています。

## 村上鬼城との友情

群馬県高崎市の俳人、村上鬼城の句を高く評価した乙字は、『鬼城句集』（大正六年（一九一七）刊）の編集・刊行に尽力しました。乙字は句集の序において、「明治大正の御代に出でて、能く芭蕉に追隨し一茶よりも句品への優つた作者がある。実にわが村上鬼城氏其人である―実に明治大正俳壇の第一人者なり」と絶賛しています。乙字への鬼城の書簡は、出会いの頃のこと、句集編集への感謝、乙字の俳論への鬼城のコメントなど興味深いものです。二人の厚い友情を垣間見ることができます。



『鬼城句集』（大正6年〈1917〉刊）



『句集炬火』（大正6年〈1917〉刊）